

INTERVIEW

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO) 理事長
尾身 茂先生



【プロフィール】 尾身 茂先生 昭和42年高校時代にAFS交換留学生としてニューヨークに留学。昭和53年自治医科大学卒業(1期生)。平成2年WHO西太平洋地域事務局感染症対策部長等、平成11年第5代西太平洋地域事務局長、平成21年WHO執行理事、自治医科大学地域医療学センター教授、平成23年国立国際医療センター理事、平成24年年金・健康保険福祉施設整理機構理事長、内閣官房新型インフルエンザ等対策有識者会議の長、平成25年国立国際医療センター顧問、平成26年地域医療機能推進機構(JCHO)理事長に就任。平成12年ベトナム名誉国民賞、平成13年第37回小島三郎記念文化賞、平成14年香港地域医療学会名誉特別専門医、平成21年小児麻痺根絶特別貢献賞を受賞。

日本の医療のために、 公的機関の為すべき使命。

聞き手：山田隆司 地域医療研究所所長

世界でのヘルスケアの経験を日本というコミュニティで生かす

山田隆司(聞き手) 今日地域医療機能推進機構本部に、理事長である尾身 茂先生をお訪ねしました。先生がここに赴任されるようになった経緯や今後の活動の方針、またわれわれ地域医療振

興協会と先生の機構がどう協力していけるかなど、お話しできればと思います。

まずは、先生がWHOにおられたところから一度大学に戻り、そしてこちらの理事長に就任され

るまでの経緯などを少しお話いただけますか。

尾身 茂 今年私は65歳になるので前期高齢者です。ここまで生きてみると人生というのは不思議なことがたくさんあるなと感じます。私はWHOに長くいて、2009年に日本に帰ってきたのですが、その前の年の2008年にいろいろな国に挨拶にまわり日本では大阪府と兵庫県を訪れました。その際に両府県の知事と会ってお話する中で「最近、海外で新型インフルエンザの感染が問題となっているが、もし日本でも流行ったらどうしたらよいのか？」と聞かれ「すぐに学校閉鎖などの対応をしてください」というお話をしました。ところが2009年に日本の中学・高校で新型インフルエンザH1N1の集団感染が日本で初めて起きたのが大阪府と兵庫県だったのですね。もちろん偶然ですが、不思議なことがあるものだと思います。

さて、前置きはこれくらいにして、2009年に帰国し自治医科大学に戻りました。いろいろな県をまわり卒業生とも再会しました。東日本大震災の時は自治医大に本部を置いて全国の卒業生と連携し岩手県と宮城県で頑張る仲間の後方支援に関与する機会がありました。第一弾の派遣の時には地域医療振興協会がチャーターしたヘリを利用させていただきましたね。

自治医大は2012年3月31日で退職し、4月1日からRFO(独立行政法人 年金・健康保険福祉施設整理機構)理事長に任命され、JCHO(ジェイコー)の設立準備に取り組んできました。私は自治医大卒業生として地域医療を担ってきましたし、WHOに行ってから、日本の医療は世界一流だけれど、足りないのは総合医と専門医の連携を含め、地域医療に関するグランドデザインの欠如という意識がずっとあったので、その解決のお手伝いのできればと思って、この仕事を引き受けました。

地域医療を担ってきた自治医大というのは、設立当初は、その時代に、取り残された“へき地”医療に取り組んできたわけですが、40年経過し、

表1 JCHO設立の経緯

- | |
|--|
| <p>① 医療保険制度の設立当時(昭和初期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度は立ち上がったが病院数の絶対的不足 ・このため国(後の社会保険庁)は社会保険のために集めた保険料などを使い病院建設=現在のJCHO病院(それぞれの地域で地域医療を実践してきた) <p>② ところが</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年消えた年金問題が発覚 ⇒ 社会保険庁解体 ・保険料などで建てられた保養所、病院を売却し社会保険財源に戻すべきとの意見が浮上 ⇒ RFO(独立行政法人 年金・健康保険福祉施設整備機構)発足 ・RFO:社会保険関係施設の譲渡・売却
保養施設等については全てを売却、病院については8病院を売却 <p>③ しかし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その後“地域医療崩壊”が社会問題化 ・このため3年前(平成23年)に法律が制定され3団体への病院運営委託をやめ、JCHOが直接病院運営することになった ・2年前、尾身 茂がRFO理事長に任命され、JCHO発足のための準備をしてきた |
|--|

地域医療は国民的課題になった今、時代の最先端に躍り出たという感じを持っています。私はクリスチャンではないですが、マタイによる聖福音書にもあるように「後のものが先になり、先のが後になる」というのが、実感です。

JCHOは、ご存知のように社会保険関連の病院を超高齢化社会の新たなニーズに応えるために改組してできた組織ですが、全国社会保険病院等というのはもともと地域医療を担っていたわけで、そういう意味では時代の要請で生まれた独立行政法人のように思います。

山田 2年ほど前に社会保険中央病院の斉藤寿一先生に、「月刊地域医学」のインタビューでお話を伺う機会がありましたが、社会保険病院のグループというのは地域密着型で、地域に根ざした医療を展開している病院が多いということを知りました。

尾身 そうなのです。独立行政法人地域医療機能推進機構を英語訳しようと考えた時に、急性期の